

地道に展開してきた成果

土曜日は、凍てつくような寒さをしばし忘れさせる穏やかな日でした。早朝から、土岐区長会主催の「土岐川清掃」が開催され、ボランティアで参加した人たちが、消防署前の橋から、「きなあた瑞浪」前の橋までの区間の土手のゴミ拾いに取り組みました。会場は北中からは四十名のボランティア生徒が参加しました。会場は土岐地区でしたが、他地区出身の生徒たちも駆けつけました。一般の人たちも多く参加していましたが、やはり機動力となると、中学生が中心です。今年も多くの中学生が、積極的に駆け回りました。私はゴミを拾いながら、あることに気付きました。恐らく、過去にも参加したことがある方の中には、私と同じことに気付いた人もいるのではないのでしょうか。中学生の中にもそういう人がいたら、ぜひとも教えてほしいものです。

私が気付いたのは、ゴミが年々少なくなっているということです。ゴミの数を数えたわけでもありませんし、重さを測ったわけでもありませんから、正確なことは言えません。集まってきたゴミの大きな量や、私の拾い歩いた感触からすると、以前のゴミの量より、ずいぶん少なくなっていると感じました。

私の近くで拾っていた地域のご年配の男性が、「全くゴミがないなあ。やりがいがないから、前の日にゴミをばらまいとかなあかんわ!」と笑って冗談を言ってみえました。それを聞いた私も一緒に笑っていました。私はその男性の冗談をゴミが少なくなったことに対する喜びだと感じました。

もちろん、ゴミが全くないわけではありませんでした。少なくとも「たばこ」を特に実感したのは、タバコの吸い殻です。以前は、歩きながら一つ一つとタバコの吸い殻を拾い、終わってみると、袋の中に結構たまっていたことを覚えています。今回はそう言うことはありませんでした。先ほどの男性も、「タバコの吸い殻も落ちとらへん」と笑って怒ってみえました。

確かに清掃活動としては、その結果が物足りなかったかもしれない。しかし、私はこの清掃活動に参加して残念な気持ちは全くありませんでした。むしろ、こうした活動を地道に展開してきた成果が出ているかもしれないと感じることができ、うれしい気もちになりました。

川ですから、「流れつくゴミ」「ポイ捨てされるごみ」の二つがあります。取り組んだ清掃範囲は限られています。土岐川ではどちらのゴミも少なくなっている傾向にあるようです。ボランティアで貢献できることはうれしいことですが、ボランティアが今後必要なくなるぐらいの川がきれいになることもうれしいですね。そうなるまでには、もう少し時間がかかりそうです。(十二月六日 記)

